

1. フィルムコミッション（FC）とは

フィルムコミッションとは、映画やテレビドラマ、CMなどあらゆる映像作品の撮影場所の誘致や、実際の撮影にあたって撮影をスムーズに進めるための様々な支援を行う組織のことである。1940年代にアメリカのユタ州で発祥したとされ、今日では世界中にFCが存在する。

日本では、自治体や住民が中心になって映画の撮影を支援したケースとして大林宣彦氏の監督による映画群、いわゆる“尾道三部作”（1980年代）における尾道市が先駆的な取組みとされており、「ロケ地めぐり」という観光形態が注目されるきっかけともなった。今のような形でFCが組織化され始めたのは2000年頃で、「大阪ロケーション・サービス協議会」をはじめ横浜、神戸、北九州など各地で相次いでFCが作られ、現在では全国に150～200程度のFCがある模様。このうち全国組織である「特定非営利活動法人ジャパン・フィルムコミッション（JFC）」により認定されたFCが全国に67団体あり、これら認定FCは全て自治体などを母体とする非営利団体である。「長崎県フィルムコミッション」も認定を受けており、長崎県観光連盟を母体とする組織となっている。

自治体などがFC活動に取り組むのは、尾道のような観光推進目的である場合や、ロケ隊が滞在することによる地元への直接的な経済効果を期待する場合のほか、地域のイメージアップ、あるいは文化振興など、各地の実情に応じて様々な目的が挙げられている。

2. FCが提供するサービス

各地のFCが共通して提供するサービスは、以下のようなものである。

- ・ロケ地に関する情報提供（写真提供、撮影条件の提示、各種使用料、連絡先、地図など）
- ・宿泊、食事、機材、レンタカーといったロケ関連の情報提供
- ・撮影許認可に関する情報提供

また、FCによっては警察署、公的機関などへの撮影許可手続きの簡便化や代行、ボランティアエキストラの手配、ロケーションハンティング（実際の撮影の前に、撮影を行う場所を探したり下見を行ったりすること。以下ロケハン）や撮影への同行、宣伝への協力、ロケハンや作品に対する助成金や補助金などのインセンティブ（助成）、などを行うことがある。

3. 長崎県フィルムコミッション

(沿革)

長崎県フィルムコミッション（以下、長崎県FC）の前身である「ながさき観光地映像化支援センター」（以下、支援センター）が任意団体として設立されたのは2002年1月である。当時、2000年に大阪で日本初のFCである大阪ロケーション・サービス協議会が設立され、翌01年には「全国フィルム・コミッション連絡協議会」（後のJFC）が発足するなど全国的にFC設立の動きが活発化し始めた時期であり、またその頃長崎を舞台にした映画「精霊流し」の撮影が行われたことも、支援組織の必要性が認識されるきっかけになったようだ。

設立以降、映像制作支援活動を積極的に行いながら08年には長崎県FCに改称した。これはフィルムコミッションという用語が一般に浸透し始めていたことや、観光地での撮影のみを支援するわけではないことから旧名の「観光地映像化」という部分が活動の実態にそぐわない、あるいは、むしろ撮影した場所が観光地化するというフィルムツーリズム推進の考え方への変化など、いくつかの理由による。

そして、この4月にはそれまで任意団体であった長崎県FCが一般社団法人長崎県観光連盟内の部門に編入された。もともと県や観光連盟などに関連の深い団体として発足したが、任意団体とはいえ独立した組織であったことや、行政からの資金提供を受けていたことなどから本来の支援活動以外の、組織維持のための手続きや事務処理などが大きな負担となっていたため、これを解消してFC活動に専念できる環境の構築を目指すとともに、連盟自体が直接FC推進に携わることを明確にする再編といえる。現在は長崎県観光連盟で国内誘客を担当する部門の業務の一環として、連盟職員である担当者がFC業務にほぼ専念する形となっている。

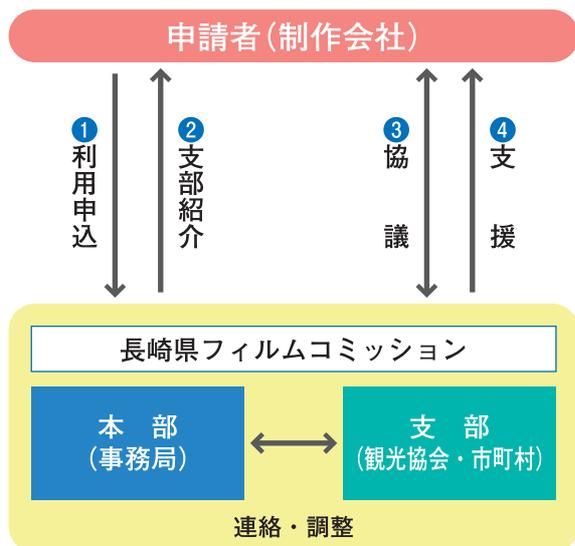
(活動内容)

長崎県FCは、提供する支援内容を①撮影等に関する相談受付、②撮影等に関する各種情報提供、③撮影許可に関する協力・調整としている。これは一般的な他のFCが提供するものと同様である。具体的には、長崎県内での撮影を検討している製作者からの照会に対して最適と思われるロケ地を具体的に提案し、ロケが決まれば撮影に必要な詳細情報をさらに提供したり、関係機関・団体等との調整などを行うなどである。現実にはロケハンの段階から担当者が帯同する場合も多く、様々な要望に柔軟な対応を行っており、実際の支援内容は多岐にわたる。またこれら直接的な支援活動以外に、東京国際映画祭や釜山国際映画祭などに併催されるロケ誘致イベントへのブース出展をはじめとする誘致活動（営業活動）も重要な業務となっている。

こうした支援を県内全域についてきめ細かく行うために、長崎県FCの窓口は本部として観光

連盟内にあり、映像制作者の要望に応じて県内の各自治体や観光協会が支部として機能し、各地で具体的な対応を行うことができるような組織になっている。窓口が一本化されていることで映像制作者側にとって利用のしやすさに繋がっていると考えられる。

支援フロー図



支援実績 (2013年度)

(件)

情報提供件数 (照会への回答、ロケハン協力など)	70
ロケ対応件数	84
映画／ショートフィルム	9
ドラマ	5
バラエティ	11
CM	10
ニュース・情報番組	35
その他	14
合計	154

(特色)

各地の、特に都市型のFCの場合、様々な映画やドラマなどのロケが数多く実施されることでもたらされる地域への直接的な経済効果が年間数億円に上る場合もある。例えば、茨城県では県内FCの合計で年間約5.5億円 (2013年度)、また北九州フィルムコミッションは同じく3.5億円ほどの直接効果があったとされている (2011年度)。一方、長崎県FCによると、ロケ隊により県内にもたらされる直接の経済効果は年間数千万円規模にとどまっている模様である。

長崎県FCは支援センターとして設立された当初より「長崎県の魅力発信を通して観光活性化を図る」ことを目的としており、またFC業務に携わる人員に限りがあることもあり、ロケ隊誘致の数や規模を稼ぐというよりは、間接的な観光誘客面の効果に重点を置いているといっていよい。

一方で、長崎県は他地域のFCと比較してロケ隊誘致の面で恵まれているともいわれる。観光地としての知名度が高く、歴史的にも重要な地域が多いことなどから、小説などの舞台となりやすい。そうしたものを原作として映画が作られるとしたら、舞台となっている場所での撮影が候補になるのは自然であろう。また半島や離島など変化に富んだ自然景観や、坂の多いまち、港町、異国情緒溢れる街等々、独特のイメージが浸透していることも、ロケ候補地として長崎県が検討されやすい理由と考えられる。

長崎県で撮影された主な映画

作品名	公開年	監督（敬称略）	ロケ場所	配給
ペコロスの母に会いに行く	2013	森崎 東	長崎市・雲仙市・佐世保市・諫早市	素浪人
池島譚歌	2013	萩野 欣士郎	長崎市（池島）	チームフィルムフロンティア
横道世之介	2013	沖田修一	長崎市	日活
爆心 長崎の空	2013	日向寺 太郎	長崎市	パル企画
007スカイフォール	2012	サム・メンデス	長崎市	ソニーピクチャーズ
あなたへ	2012	降旗康男	長崎市・佐世保市・平戸市	東宝
この空の花 長岡花火物語	2012	大林宣彦	長崎市	PSC、TMエンタテインメント
夏の祈り	2011	坂口香津美	長崎市	スーパーサウルス
PICARO	2011	野上鉄晃	長崎市・大村市	自主制作映画
悪人	2010	李相日	長崎市・雲仙市・平戸市・五島市	東宝
信さん・炭坑町のセレナーデ	2010	平山秀幸	長崎市池島町	ゴールドラッシュ・ピクチャーズ

長崎県で撮影された主なドラマ

作品名	主な出演者（敬称略）	公開／放映日
NHKドキュメンタリードラマ「ペコロス、母に会いに行く」	イッセー尾形、草村礼子	2013年2月17日
NHK「書店員ミチルの身の上話」第1話	戸田恵梨香	2013年1月8日
テレビ朝日「法医学教室の事件ファイル35」	名取裕子、宅麻伸	2012年12月1日
TBS月曜ゴールデン「窓際太郎の事件簿24」	小林稔侍	2012年11月12日
テレビ東京「刑事藤原伝吉の事件簿 長崎雲仙湯煙地獄」	松平健、齊藤慶子	2012年6月6日
中国版ドラマ「猟奇的な彼女」	エディポン、チャン・メン	未定
NHK土曜ドラマスペシャル「蝶々さん」（前編・後編）	宮崎あおい、イーサン・ランドリー	2011年11月19日・26日
TBS木曜ドラマ9「ランナウェイ～愛する君のために～」(第1話)	市原隼人、塚本高史、上田竜也、菅田将暉	2011年10月27日
TBS月曜ゴールデン「西村京太郎サスペンス探偵左文字進15」	水谷豊、戸田恵子	2011年7月18日
フジテレビ「故郷～娘の旅立ち～」	松平健、堀北真希	2011年7月5日
NHK日仏国際共同製作ドキュメンタリードラマ「カティアとモリス」"Volcano Devils"	マティアス・ムレクス、クロード・ペロン	2011年6月4日・18日
フジテレビ浅見光彦スペシャル「棄霊島（さいれいじま）」	中村俊介、榎木孝明、野際陽子	2011年5月6日・7日 (2夜連続)
TBS日曜劇場「JIN-仁-」	大沢たかお、綾瀬はるか	2011年4月17日～
TBS「女取調官」	賀来千香子	2011年1月24日
NHK大河ドラマ「龍馬伝」第3部	福山雅治、香川照之	2010年7月18日～

（課題）

上述のような特色を持つ長崎県FCであるが、主な目的である観光誘客の推進（フィルムツーリズムの推進）という面で課題も指摘されている。

まず、撮影された映像作品を地域資源として認識して活用していこうとする意識が、地域においてあまり強いとはいえない点である。これは、もともと観光地としての知名度が高いことが裏目に出て、作品による知名度向上の効果が見えにくいことも大きな理由と考えられる。また、長崎県内で撮影される映像作品がそれなりの数に上ることも、個々の作品を盛り上げて積極的に活用しようという意識を希薄化させている面があることは否定出来ない。あまり撮影が行われることがない地域では、撮影が行われるとなると地域をあげて撮影に協力し、作品のPRを大々的に行ったりする場合があるが、長崎県の場合は撮影が行われていることすら認知されずに終わることも少なくない。もっとも、こうしたことは長崎県FCだけの課題というよりはむしろ観光行政、あるいは地域全体の課題として捉えるべきであろう。

次に、長崎県FCは機能や組織の規模の点からロケ隊の誘致から情報提供、撮影支援といった入口に特化したものであり、完成した作品を活用して観光誘客に結びつけるための出口の部分までを担う部分が手薄であったことである。この点については、この4月からの組織再編（長崎県FCが県観光連盟の国内誘客部門に編入されたこと）によって発展的に解決が図られていく可能性があり、今後に期待したい。

4. 地域振興とFC活動

長崎県FCによると「今年は長崎県内ロケの当たり年」とのこと、ゴールデンウィーク前後にはいずれも人気コミックの実写映画化である「アオハライド」、「進撃の巨人」が相次いで撮影を終えており、この夏にはNHK全国学校音楽コンクール課題曲にもなった楽曲「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」をモチーフにした小説を原作とした映画「くちびるに歌を」が五島ほかオール長崎ロケで製作される。さらに今年から来年にかけてその他に数本の大きな企画が内定しているという。

このように広く注目される作品が多く撮影されることで地域への好影響が見込まれる一方、さきに課題として挙げた地域として個々の作品を盛り上げようとする意識の希薄化が懸念される。映像作品の撮影が行われることで定番の観光地に新しい付加価値がもたらされたり、従来観光資源とみなされていなかったようなものが新たに注目されたりといったきっかけにもなりうる。そのように考えると、撮影を誘致し、製作された映像作品を地域資源として活用していくことは、観光ニーズが大きく変容しつつある今日、観光推進のための有力な手法のひとつと考えられるだろう。そのような認識を地域で共有することができればロケ作品の盛り上げにも繋がっていくのではないだろうか。

また、地域でのロケ実施に際してボランティアスタッフやエキストラなど地域の住民の関わりや、民間企業の撮影協力など、様々な形で地域が撮影に関わっていくことも重要である。関わる経験を重ねていくことで次第にスムーズな撮影進行にも繋がっていくばかりではなく、地域における映像文化や産業に対する理解の深まりといった文化面での効果も期待できる。

長崎県はロケ誘致の面などで比較的恵まれた環境にありながら、FC活動の成果を生かす余地がまだ多く残されているように思われる。ロケ誘致から実際のロケ支援、完成した作品の活用による誘客推進などに加え、ロケ支援の積み重ねによる映像関連産業や人材の育成、地域の文化振興に至るまで、地域全体で戦略的に取り組んでいくことができれば、さらに多くの成果を期待することができるのではないだろうか。

(野邊 幸昌)